

DI ニュース

(Drug Information News)

NO. 414

2019年6月

徳山医師会病院 薬局

TEL: 0834-31-7716

FAX: 0834-32-5349

e-mail: yaku2@tokuyamaishikai.com

薬局ウェブサイト http://hospital.tokuyamaishikai.com/introduce_list/ より「薬局」をクリック

1. 各種テープ剤の分割使用について

近年、様々な疾患に対する貼付剤が発売されています。大きく分けると、消炎鎮痛などの局所作用を期待するもの（シップなど）と、喘息や狭心症などのように全身作用を期待するもの（経皮吸収型製剤）の2種があります。貼付剤は使用法が簡便で使いやすい薬剤ではありますが、全身作用型に関しては用量調節が難しいという欠点もあります。そのような場合、「切って使えるか?」という点が問題となります（局所型は切断して使用してもそこまで問題になることはありません）。

経皮吸収型製剤には「リザーバー型」と「マトリックス型」の2種があり、リザーバー型はテープの内部に薬物貯留層があるため、切ってしまうと切断面から成分が漏出してしまうため切断不可となっています。マトリックス型は理論的には切断しても問題はありませんが、剥がれやすくなったり吸収量の変化がおこったりするものなどもあるため、原則としては切断しての使用は推奨されていません。

以下に経皮吸収型製剤の切断の可否をまとめてみました。ただし、上記した通り「○」となっても剥がれやすくなるものなどもあるので注意して使用するようにしてください。

※ゴシック体の太字になっているものが当院採用薬です。

成分名	薬品名	薬効	切断の可否
エメダスチン	アレサガテープ	アレルギー性鼻炎治療	○
エストラジオール	エストラーナテープ	更年期障害	×
エストラジオール 酢酸ノルエチステロン	メノエイドコンビパッチ	更年期障害	×
オキシブチニン	ネオキシテープ	過活動膀胱	○
硝酸イソソルビド	イソピットテープ	狭心症 など	○
	ニトラステープ		○
	フランドルテープ		○
	リファタックテープ		○
	硝酸イソソルビドテープ		○
ツロブテロール	ツロブテロールテープ	気道閉塞性障害	○
	ホクナリンテープ		○
ニコチン	ニコチネルTTS	禁煙補助	×
ニトログリセリン	ニトログリセリンテープ	狭心症	○
	バソレーターテープ		○
	ミニトロテープ		○
	メディトランステープ		○
	ミリステープ		○

ニトログリセリン	ニトロダームTTS	狭心症	×
ビソプロロール	ビソノテープ	高血圧、心房細動	○
フェンタニル	フェンタニル1日用テープ	麻薬：疼痛緩和	×
	フェンタニル3日用テープ		×
	フェントステープ		×
	ラフェンタテープ		×
	デュロテップMTパッチ		×
ワンデュロパッチ	×	×	
ブプレノルフィン	ノルスパンテープ	慢性疼痛	×
リドカイン	ペンレステープ	疼痛緩和	○
	リドカインテープ		○
	ユーパッチテープ		○
リドカイン・プロピトカイン配合	エムラパッチ	疼痛緩和	×
リバスチグミン	イクセロンパッチ	アルツハイマー型認知症	×
	リバスタッチパッチ		×
ロチゴチン	ニュープロパッチ	パーキンソン病 等	×

<参考文献>各薬剤添付文書、インタビューフォーム、各メーカーWebサイト、
東海大学医学部附属病院Webサイト、ファーマライズ医薬情報研究所Webサイト

2. 薬事委員会結果報告

5月開催分

●先発品から後発品への切り替え予定医薬品

	品名(後発品)	薬価	薬効	同一成分薬品(先発品)	薬価
内服薬	トアラセット配合錠	22.80	慢性疼痛/抜歯後疼痛治療剤	トラムセット配合錠	69.80
外用薬	ロキソプロフェンNaテープ100mg	19.80	経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤	ロキソニンテープ100mg	34.60
	ヒアルロン酸ナトリウム点眼液0.1%	152.2/瓶	角結膜上皮障害治療用点眼剤	ヒアレイン点眼液0.1%5mL	366.6/瓶
	ラタノプロスト点眼液0.005%	260.4/mL	プロスタグランジンF2α誘導体。緑内障・高眼圧症治療剤	キサラタン点眼液0.005%	605.7/mL

●常備中止医薬品 ※在庫数は5月末時点の数です。

	品名	在庫数	薬効	理由	同種同効薬
内服薬	調剤用パンビタン末	500g	複合ビタミン剤	使用が少ないため	
	カバサル錠1.0mg	0	ドパミン作動薬	使用が少ないため	ビ・シフロール錠0.5mg プラミペキソール塩酸塩LA錠 (0.375mgMI、1.5mgMI) ロピニロール徐放錠 (2mg、8mg) レキップ錠1mg
	ペルマックス錠250μg	0	ドパミンD1,D2作動性パーキンソン病治療剤		
外用薬	サリベートエアゾール	4本	人工唾液	使用が少ないため	

●製造中止のため代替薬への変更予定医薬品

	変更薬品名	薬価	薬効	従来品	薬価
注射薬	ウロナーゼ静注用 6万単位	2,790	線維素溶解酵素剤	ウロキナーゼ注「フジ」60000	1,030

3. Q&Aコーナー

5月分

★腎機能低下時のカロナールの使い方は？

1回 600mg まで程度とする。

★スローケーからアスパラKへ切り替える際の対応量は？

カリウム製剤によってそれらの常用量は異なっており、これは各製剤の生体内利用率や組織移行性などの違いによるものと思われる。

よって、常用量対比で換算し、その後は血清カリウム値をモニターしつつ調節すると良い。

(メーカーWebサイトより)

★エストラサイトとカルシウム間で相互作用があるが、どの程度か？

水での服用時の血中濃度推移を 100% とすると、牛乳で服用した場合 41% まで低下する。

カルシウム摂取の①1時間前、②2時間後 にエストラサイトを服用すれば問題ない。

ただし①の場合は食欲低下などの副作用に、②は飲み忘れに注意が必要となる。

エストラサイトは朝夕の1日2回服用の薬であり、昼食時に牛乳などを摂取することは問題ない。

(メーカーより)

★レザルタス配合錠 HD は粉砕可能か？

不可。

粉砕2時間で含有薬剤であるオルメサルタンの含量低下が起こる。

★アクテムラの投与量はどのくらい誤差があっても大丈夫か？

特に指標は無い。

4. 新規収載医薬品

2019年5月22日

●内用薬

ビバンセカフセル 20mg、30mg

製造・販売	塩野義製薬
分類	精神神経用剤
一般名	リスデキサソフェタミンメシル酸塩
薬価	20mg : 674.80 円 30mg : 747.70 円
効能・効果	小児期における注意欠陥/多動性障害 (AD/HD)
用法・用量	通常、小児にはリスデキサソフェタミンメシル酸塩として30mgを1日1回朝経口投与する。症状により、1日70mgを超えない範囲で適宜増減するが、増量は1週間以上の間隔をあけて1日用量として20mgを超えない範囲で行うこと。

ロスゼット配合錠 LD、HD	
製造・販売	MSD
分類	高脂血症用剤
一般名	エゼミチブ/ロスバスタチンカルシウム
薬価	LD：177.00円 HD：177.00円
効能・効果	高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症
用法・用量	通常、成人には1日1回1錠(エゼミチブ/ロスバスタチンとして10mg/2.5mg又は10mg/5mg)を食後に経口投与する。
スマイラフ錠 50mg、100mg	
製造・販売	アステラス製薬
分類	他に分類されない代謝性医薬品
一般名	ペフィシチニブ臭化水素酸塩
薬価	50mg：1,741.00円 100mg：3,379.90円
効能・効果	既存治療で効果不十分な関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む）
用法・用量	通常、成人にはペフィシチニブとして150mgを1日1回経口後に経口投与する。なお、患者の状態に合わせて100mgを1日1回投与できる。
アーリーダ錠 60mg	
製造・販売	ヤンセンファーマ
分類	その他の腫瘍用薬
一般名	アパルタミド
薬価	2,281.90円
効能・効果	遠隔転移を有しない去勢抵抗性前立腺癌
用法・用量	通常、成人にはアパルタミドとして1日1回240mgを経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。

●注射薬

アセンド注 100μg	
製造・販売	藤本製薬
分類	無機質製剤
一般名	亜セレン酸ナトリウム
薬価	1,618円
効能・効果	低セレン血症
用法・用量	<p>通常、成人及び12歳以上の小児にはセレンとして1日100μgを開始用量とし、高カロリー輸液等に添加し、中心静脈内に点滴静注する。以後は、患者の状態により1日50～200μgの間で適宜用量を調整するが、効果不十分な場合には1日300μgまで中心静脈内に点滴静注することができる。</p> <p>通常、12歳未満の小児にはセレンとして1日2μg/kg（体重50kg以上の場合は100μg）を開始用量とし、高カロリー輸液などに添加し、中心静脈内に点滴静注する。以後は、患者の状態により1日1～4μg/kg（体重50kg以上の場合は50～200μg）の間で適宜用量を調整し中心静脈内に点滴静注する。</p> <p>なお、本剤の1日投与量を1日1回末梢静脈内に点滴静注または緩徐に静脈内注射することもできる。</p>

レフコピ筋注 2.4mg	
製造・販売	帝人ファーマ
分類	酵素製剤
一般名	エラペグアデマーゼ（遺伝子組み換え）
薬価	846,349 円
効能・効果	アデノシンデアミナーゼ欠損症
用法・用量	通常、エラペグアデマーゼ（遺伝子組み換え）として0.2mg/kgを1週間に1回筋肉内注射する。なお、患者の状態に応じて適宜増減するが、1回あたりの最大投与量は0.3mg/kgとする。ただし、速やかにアデノシンデアミナーゼ活性を上昇させる必要がある場合には、1回0.2mg/kgを1週間に2回筋肉内注射することができる。
スキージ皮下注 75mg シリンジ 0.83mL	
製造・販売	アッヴィ
分類	他に分類されない代謝性医薬品
一般名	リサンキズマブ（遺伝子組み換え）
薬価	239,374 円
効能・効果	既存治療で効果不十分な下記疾患 尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症
用法・用量	通常、成人にはリサンキズマブ（遺伝子組み換え）として、1回150mgを初回、4週後、移行12週間隔で皮下投与する。なお、患者の状態に応じて1回75mgを投与することができる。
リサイオ点滴静注液 100mg	
製造・販売	大日本住友製薬
分類	アルキル化剤
一般名	チオテパ
薬価	189,816 円
効能・効果	症に悪性固形腫瘍における自家造血幹細胞移植の前治療
用法・用量	メルファランとの併用において、通常、チオテパとして1日1回200mg/m ² を24時間かけて点滴静注する。これを2日間連続で行い、5日間休薬した後、さらに同用量を2日間連続で行う。なお、患者の状態により適宜減量する。
ラビピュール筋注用	
製造・販売	グラクソ・スミスクライン
分類	ワクチン類
一般名	乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン
薬価	11,867 円
効能・効果	狂犬病の予防及び発病阻止 ※保険適用となるのは発病阻止のみ
用法・用量	本剤を添付の溶剤（日本薬局方注射用水）の全量で溶解し、次の通り使用する。 1. 暴露前免疫 1.0mLを1回量として、適切な感覚をおいて3回筋肉内に接種する。 2. 暴露後免疫 1.0mLを1回量として、適切な感覚をおいて4～6回筋肉内に接種する。 ※保険適用となるのは2. 暴露後免疫のみ
ピリヴィジェン 10%点滴静注 5g/50mL、10g/100mL、20g/200mL	
製造・販売	C S L ベーリング
分類	血液製剤類

一般名	pH4処理酸性人免疫グロブリン
薬価	5g : 39,718 円 10g : 78,580 円 20g : 155,468 円
効能・効果	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の筋力低下の改善、慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の運動機能低下医の進行抑制（筋力低下の改善が認められた場合）
用法・用量	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の筋力低下の改善 通常、成人には1日に人免疫グロブリンGとして400mg(4mL)/kg体重を5日間連日点滴静注する。 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の運動機能低下医の進行抑制(筋力低下の改善が認められた場合) 通常、成人には人免疫グロブリンGとして「1,000(10mL)/kg体重を1日」又は「500mg(5mL)/kg体重を2日間連日」を3週間隔で点滴静注する。

●外用薬

テルリジー100 エリプタ 14 吸入用、30 吸入用	
製造・販売	グラクソ・スミスクライン
分類	その他の呼吸器用薬
一般名	フルチカゾンフランカルボン酸エステル/ウメクリジニウム臭化物/ビランテロールトリフェニル酢酸塩
薬価	14 吸入 : 4,107.40 円 30 吸入 : 8,692.80 円
効能・効果	慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎、肺気腫）の諸症状の寛解（吸入ステロイド剤、長時間作用性吸入抗コリン剤及び長時間作用性吸入β ₂ 刺激剤の併用が必要な場合）
用法・用量	通常、成人にはテルリジー100エリプタ1吸入（フルチカゾンフランカルボン酸エステルとして100μg、ウメクリジニウムとして62.5μg及びビランテロールとして25μg）を1日1回吸入投与する。

5. 添付文書の改訂

※添付文書記載内容の改定に伴う改訂に関しては省略致します。

○カンデサルタン錠（あすか製薬）の【用法・用量】およびそれに関連する使用上の注意に追記がありました。（下線部_____追記箇所）

【用法・用量】

高血圧症

成人

通常、成人には1日1回カンデサルタン シレキセチルとして4～8mgを経口投与し…（以下略）

小児

通常、1歳以上6歳未満の小児には1日1回カンデサルタン シレキセチルとして0.05～0.3mg/kgを経口投与する。通常6歳以上の小児には1日1回カンデサルタン シレキセチルとして2～8mgを経口投与し、必要に応じ12mgまで増量する。ただし、腎障害を伴う場合には、低用量から投与を開始し、必要に応じて8mgまで増量する。

<用法・用量に関連する使用上の注意>

高血圧症の場合：小児に投与する場合には、成人の用量を超えないこと。

慢性心不全の場合：変更なし 省略

6. 医薬品・医療機器等安全性情報

(No. 363) 2019年6月 厚生労働省医薬・生活衛生局 【概要】

● 「患者副作用報告」について

1. はじめに

平成24年3月26日より、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）において、ホームページに患者副作用報告システムを開設し、患者又はその家族から医薬品についての副作用報告「患者副作用報告」を試行的に受け付けてまいりました。患者から直接副作用報告を受け付ける仕組みは米国、英国、オランダ等の諸外国でも導入されており、試行の結果を踏まえ、我が国においても平成31年3月26日より、患者副作用報告の受付を正式に開始しました。

2. 患者副作用報告について

患者副作用報告は、医薬品の使用による副作用が疑われる症例についての情報を、患者又はその家族から直接収集する仕組みです。収集した情報は、医薬品による副作用の発生傾向を把握する等、医薬品の安全対策を進める目的で利用されます。

試行時のPMDAの患者副作用報告システムを介した報告に加え、郵送による報告も受け付けています。報告いただく情報は、報告者に関する情報、患者に関する情報、副作用が疑われる症状を引き起こしたと思われる医薬品に関する情報、他に使用していた医薬品に関する情報、症状に関する情報、詳しい情報を聞くことのできる医療機関等についてです。

受け付けた報告については、副作用情報の分析・評価を行うために更に詳細な情報を得るため、PMDAが医療機関に対してフォローアップ調査を実施する場合があります。医療機関等の皆様におかれましては、フォローアップ調査へのご理解とご協力をお願いいたします。

報告された情報は、個人情報を除き、一定期間ごとにPMDAから厚生労働省に報告し、厚生労働省の薬事・食品衛生審議会にて報告されます。また、個人が特定されない形に加工した上で、PMDAホームページにて公表します。さらに、安全対策の一環として、報告者及び患者等の個人情報を除きその医薬品を供給する製造販売業者へ提供することがあります。

3. 報告方法について

(1) ウェブサイトからの報告

インターネットの検索サイトで「患者副作用報告」を検索するか、PMDAホームページの右下のバナー（HP内の場所は右図参照）から「患者の皆様からの医薬品副作用報告」ページ（<https://www.pmda.go.jp/safety/reports/patients/0004.html>）にアクセスできます。このページの報告方法の「ウェブサイトからの報告」から「ウェブサイトからの患者副作用報告」ページへ移り、「報告を開始する」ボタンを押下すると報告を開始できます。



(2) 郵送による報告

PMDA患者副作用報告様式請求窓口(03-3506-9546)に電話で報告様式(参考文献2)別紙を請求、または「患者の皆様からの医薬品副作用報告」ページ(<https://www.pmda.go.jp/safety/reports/patients/0004.html>)の報告方法「郵送による報告」のページから報告様式をダウンロードし、利用規約に同意の上、記入後に報告様式を以下の報告先に送付してください。

報告先 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル
PMDA安全性情報・企画管理部 患者副作用報告係

4. 試行期間中の報告状況について

患者副作用報告の試行的受付開始以降、平成30年3月31日までに、717件の報告がありました。これらの報告のうち、医療用医薬品を少なくとも1つ含む報告は676件、一般用・要指導医薬品を少なくとも1つ含む報告は43件ありました。報告の多い薬効分類は、医療用医薬品では、ワクチン類、精神神経用剤であり、一般用・要指導医薬品では、鎮痛・鎮痒・収斂・消炎剤や総合感冒剤でした。

試行期間中の報告では、医薬品の新たな安全性の懸念を示す症例はなく、添付文書改訂等の安全対策措置が必要と判断した症例はありませんでした。

5. おわりに

多くの患者から医薬品による副作用について報告いただくことで、医療従事者及び製造販売業者からの報告とは異なった目線からの情報が収集でき、医薬品による副作用の発生傾向を把握する等、医薬品の安全対策に活用することができます。また、販売開始前に医薬品の全ての副作用を把握することは難しいため、患者からの副作用情報を収集することで、安全対策に役立つと考えています。

なお、医薬品副作用被害救済制度による給付金請求は、患者副作用報告とは別の手続きが必要です。救済制度の概要、問合せ先・手続き等は、救済制度特設サイト

(https://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html)からご確認ください。

また、医療関係者が、職務上、副作用を疑った場合には、医薬品・医療機器等安全性情報報告制度(<https://www.pmda.go.jp/safety/reports/hcp/pmd-act/0003.html>)により、ご報告をお願いいたします。

7. 医薬品安全対策情報

Drug Safety Update No. 279(2019.5)

添付文書の改訂

★最重要と☆重要のうち、当院採用薬(臨時採用も含む)のみを記載

☆バルプロ酸ナトリウム

(デパケンR錠/協和発酵キリン、バルプロ酸Naシロップ「フジナガ」/ふじなが製薬＝第一三共)

[禁忌]

一部改訂

<効能共通>

重篤な肝疾患のある患者[肝障害が強く現れ致死的になるおそれがある。]
本剤投与中はカルバペネム系抗生物質(パニペネム・ベタミプロン、メロペネム水和物、イミペネム水和物・シラスタチンナトリウム、ピアペネム、ドリペネム水和物、テビペネムピボキシル)を併用しないこと。

尿素サイクル異常症の患者[重篤な高アンモニア血症が現れることがある。]

追記

<片頭痛発作の発症抑制>

妊婦又は妊娠している可能性のある女性

<p>[原則禁忌] 一部改訂</p> <p>[妊婦、産婦、授乳婦等への投与] 追記 一部改訂</p>	<p><各種てんかんおよびてんかに伴う性格行動障害の治療、躁病および躁うつ病の躁状態の治療></p> <p>妊婦又は妊娠している可能性のある女性</p> <p><片頭痛発作の発症抑制></p> <p>妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、投与しないこと。</p> <p><各種てんかんおよびてんかに伴う性格行動障害の治療、躁病および躁うつ病の躁状態の治療></p> <p>妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。</p> <p>妊娠中にやむを得ず本剤を投与する場合には、可能な限り単剤投与することが望ましい。</p> <p>… (以下略) …</p>
<p>☆デュラグルチド(遺伝子組み換え) (トルリシティ皮下注アテオス/日本イーライリリー=大日本住友製薬)</p>	
<p>[11.1 重大な副作用] 追記</p>	<p>11.1.5 重度の下痢、嘔吐</p> <p>重度の下痢、嘔吐から脱水を続発し、急性腎障害に至った例も報告されている。</p>
<p>☆イプラグリフロジンL-プロリン(スーグラ錠/アステラス製薬=寿製薬)</p>	
<p>[重大な基本的注意] 一部改訂</p> <p>[重大な副作用] 一部改訂</p>	<p>尿路感染及び性器感染を起こし、腎盂腎炎、<u>外陰部及び会陰部の壊死性筋膜炎(フルニエ壊疽)</u>、敗血症等の重篤な感染症に至ることがある。十分な観察を行うなど尿路感染及び性器感染の発症に注意し、発症した場合には適切な処置を行うとともに、状態に応じて休薬等を考慮すること。尿路感染及び性器感染の症状及びその対処方法について患者に説明すること。</p> <p>腎盂腎炎、<u>外陰部及び会陰部の壊死性筋膜炎(フルニエ壊疽)</u>、敗血症：<u>腎盂腎炎、外陰部及び会陰部の壊死性筋膜炎(フルニエ壊疽)</u>が現れ、敗血症(敗血症性ショックを含む)に至ることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p>
<p>☆トホグリフロジン水和物(アプルウェイ錠/サノフィ)</p>	
<p>[重大な基本的注意] 一部改訂</p> <p>[重大な副作用] 一部改訂</p>	<p>尿路感染及び性器感染を起こし、腎盂腎炎、<u>外陰部及び会陰部の壊死性筋膜炎(フルニエ壊疽)</u>、敗血症等の重篤な感染症に至ることがある。十分な観察を行うなど尿路感染及び性器感染の発症に注意し、発症した場合には適切な処置を行うとともに、状態に応じて休薬等を考慮すること。尿路感染及び性器感染の症状及びその対処方法について患者に説明すること。</p> <p>腎盂腎炎、<u>外陰部及び会陰部の壊死性筋膜炎(フルニエ壊疽)</u>、敗血症：<u>腎盂腎炎、外陰部及び会陰部の壊死性筋膜炎(フルニエ壊疽)</u>が現れ、敗血症(敗血症性ショックを含む)に至ることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p>
<p>☆バンコマイシン塩酸塩(注射) (バンコマイシン塩酸塩点滴静注用/小林化工=MeijiSeikaファルマ)</p>	
<p>[禁忌] 一部改訂</p> <p>[原則禁忌] 一部改訂</p>	<p>本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者</p> <p>テイコプラニン、ペプチド系抗生物質又はアミノグリコシド系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者</p>

☆アモキシシリン水和物(サワシリン錠/LTLファーマ)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	ペニシリン系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
☆アンピシリンナトリウム・スルバクタムナトリウム(ユナシン-Sキット静注用/ファイザー)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	ペニシリン系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
☆イミペネム水和物・シラスタチンナトリウム (チエナム点滴静注用/MSD、チエクール点滴用/沢井製薬)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	削除	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
☆クラブラン酸カリウム・アモキシシリン水和物 (オーグメンチン配合錠/グラクソ・スミスクライン)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	ペニシリン系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
☆スルタミシリントシル酸塩水和物(ユナシン錠/ファイザー)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	ペニシリン系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
☆セファクロル(ケフラールカプセル/共和薬品工業)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
☆セファゾリンナトリウム(セファゾリンNa注射用、点滴静注用バッグ「NP」/ニプロ)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
☆セファレキシン(L-ケフレックス顆粒/共和薬品工業)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
☆セフェピム塩酸塩水和物(注射用マキシピーム/ブリストル・マイヤーズスクイブ)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
☆セフォチアム塩酸塩(セフォチアム塩酸塩静注用、点滴静注用バッグ「NP」/ニプロ)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
☆セフォペラゾンナトリウム・スルバクタムナトリウム (ワイスタール配合静注用、点滴静注用バッグ/ニプロ)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
☆セフカペンピボキシル塩酸塩水和物(フロモックス錠、小児用細粒/塩野義製薬)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者

☆セフトレンピボキシル(メイアクトMS錠/MeijiSeikaファルマ)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
☆セフジニル(セフゾンカプセル/LTLファーマ)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
☆セフトジジム水和物(セフトジジム静注用「日医工」/日医工)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
☆セフトリアキソンナトリウム水和物 (セフトリアキソンナトリウム静注用「日医工」、 セフトリアキソンナトリウム点滴用バッグ「NP」/ニプロ＝日医工＝サンド)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
☆セフポドキシムプロキセチル(パナン錠/第一三共＝グラクソ・スミスクライン)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
☆セフメタゾールナトリウム(セフメタゾン静注用/アルフレッサファーマ)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
☆ピペラシリンナトリウム(ピペラシリンナトリウム点滴静注用バッグ「NP」/ニプロ)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	ペニシリン系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
☆ファロペネムナトリウム水和物(ファロム錠/マルホ)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	削除	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
☆フロモキセフナトリウム(フルマリン静注用/塩野義製薬)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	一部改訂	セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
☆メロペネム水和物(メロペネム点滴静注用・バッグ「NP」/ニプロ)		
[禁忌]	一部改訂	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
[原則禁忌]	削除	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
☆インフルエンザHAワクチン (インフルエンザHAワクチン「KMB」/KMバイオロジクス＝武田薬品＝MeijiSeikaファルマ)		
[重大な副反応]	一部改訂	皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson 症候群)、急性汎発性発疹性膿疱症： 皮膚粘膜眼症候群、急性汎発性発疹性膿疱症があらわれることがあるので、 観察を十分に行い、異常が認められた場合には、適切な処置を行うこと。